国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2055

日本語科学

Japanese Linguistics

8

2000年10月

October, 2000

国立国語研究所

The National Language Research Institute

Tokyo, Japan

日本語科学　8

Japanese Linguistics 8

国立国語研究所
The National Language Research Institute

2000年10月
October, 2000

ことばのサーモグラフィー
中西　進　3

研究論文 Articles

連用修飾成分「ほど」句の用法について
On the use of the adverbial modifier '*hodo*' -phrase
井本　亮　IMOTO Ryo　7

関係動詞の語彙と文法的特徴－照合行為の介在をめぐって－
Vocabulary and grammatical features of relative verbs
山岡 政紀　YAMAOKA Masaki　29

日本語心理動詞の適切な扱いに向けて
On the proper treatment of experiencer verbs in Japanese
三原 健一　MIHARA Ken-ichi　54

調査報告 Reports

19世紀末の韓国語における日本製漢語－日韓同形漢語の視点から－
A Study on the use of Nihonkango in the Korean Language in the late 19th century －Focusing on forms of Kango which were the same in Japan and Korea－
張　元哉　CHANG WonJae　76

漢字語と仮名語における語処理の差異—英語話者日本語学習者の思考過程—
The difference in word recognition processes of words written in Kanji versus Kana among English native speakers
豊田 悦子　TOYODA Etsuko　96
久保田 満里子　KUBOTA Mariko

異体字に対するなじみと好み—接触印象・使用頻度との関係—
Familiarity with Kanji variants and user preference
笹原 宏之　SASAHARA Hiroyuki　110
横山 詔一　YOKOYAMA Shoichi

研究ノート Notes

明治初期小新聞に見る「です」の様相
The Usage of *desu* in the Tabloids (koshimbun) in the Beginnings of the Meiji Era
長崎 靖子　NAGASAKI Yasuko　126

総合雑誌『太陽』の本文の様態と電子化テキスト
A philological study of old popular magazine "Taiyo" (1901) for translating into machine-readable format
田中 牧郎　TANAKA Makiro　141
小木曽 智信　OGISO Toshinobu

世界の言語研究所（８）　フィリピノ語委員会
大上 正直　153

第８回国立国語研究所国際シンポジウムご案内　157

平成12年度国立国語研究所公開研究発表会ご案内　158

既刊内容（第５号～第７号）
投稿規定・執筆要領
編集委員会からのおわびとお願い／査読者一覧（５号～８号）
編集後記

第８回　国立国語研究所国際シンポジウム
ご案内

専門部会

「日本語とアジア諸言語との対訳作文コーパス：対照言語学・日本語教育への応用」

日程：2000年12月14日(木)～15日(金)

場所：国立国語研究所 講堂（事前申し込み）

現在国立国語研究所では，「日本語とアジア諸言語との対訳作文コーパス」というデータベースを作成しています。これは，

1）アジア諸国の日本語学習者が書いた日本語の作文

2）その作文を，執筆者本人が母語（または最も楽に文章が書ける言語）に訳したもの

3）日本語の作文を，日本語教師が添削したもの

4）執筆者・添削者の言語歴（出身地・日本語学習歴・日本語教育歴など）

という４種類のデータを電子化し，インデックスをつけて，データ同士の間で相互参照ができるようにしたものです。1999年度，アジア７カ国（中国・韓国・タイ・ヴェトナム・マレーシア・シンガポール・インド）から約800名分のデータを集め，2000年８月には試用版としてデータベースver.１をCD-Rの形で公開し，国内外の日本語・日本語教育研究者のかたがたにお配りいたしました。現在さらに多くの国々からデータを追加収集しており，2001年中にはデータベースver.２を公開できる予定です。

今回のシンポジウムでは，このデータベースを用いた対照言語学的研究や，日本語教育への応用法などについて，さまざまな角度からの発表を予定しています。

プログラム概要：

第１部　データベースの基本設計

第２部　データベースを用いた対照言語学的研究

第３部　データベースの日本語教育への応用

申し込み・問い合わせ　国立国語研究所日本語教育センター

宇佐美 洋　E-mail:smudr@kokken.go.jp

〒115-8620　東京都北区西が丘3-9-14

電話：03-5993-7657(直通) FAX：03-3906-3530(共用)

なお，今年度は他に「東アジアにおける日本語観国際センサス」（９月：公開）および「自発音声韻律ラベリングワークショップ」（11月：非公開）を開催します。詳細はホームページをご覧ください。

平成12年度 国立国語研究所公開研究発表会
ご案内

「情報資料研究部における研究業務の現状と将来構想」

【プログラム】（表題は，いずれも仮題であり，変更の可能性があります）

1．熊谷康雄　「バーチャル日本語情報資料館構築に向けて」
2．斎藤達哉　「国語年鑑データベース活用の一事例――1991～1999年の国語研究の動向――」
3．池田理恵子「新聞切抜きデータベースの作成とその活用例」
4．横山詔一　「言語研究資料としての電子媒体の問題点」
5．関連研究室公開

日時　平成12年12月20日（水）午後１時30分～５時20分
場所　国立国語研究所講堂　　公開（入場自由，参加申し込み不要）

国立国語研究所は，毎年，公開の研究発表会を開催しています。平成12年度は，情報資料研究部関連の事業について，その一端をご報告いたします。

情報資料研究部は，平成元年度に発足した部署で，日本語研究に役立つ情報の収集整理および公開を主たる任務としています。今回の発表会では，当研究部が継続的に実施している研究業務の一部を紹介するとともに，今後展開する予定の「日本語情報資料館」構想を披露いたし，ご参会の方々からのご意見・ご要望をいただく機会にしたいと思っています。

また，一連の研究発表のあとに，当該部署の「研究室公開」を行います。ここでは，口頭報告だけでは不十分な部分を，具体的な姿を動的な形で見ていただくことにより補い，さらに突っ込んだ意見交換を行なう予定です。

多くの方々のご参会と活発なご論議をお待ちしています。

問い合わせ先：国立国語研究所情報資料研究部　電話 03-5993-7641（直通）
FAX 03-5993-7640（直通）
電子メール　egawa@kokken.go.jp（江川）

既刊内容（第５号～第７号）

【第５号】（1999年４月）
21世紀におけることばの役割―求心性と多様性―　小池 生夫
語彙概念構造レベルでの複合　小林 英樹
東京と大阪の談話におけるあいづちの種類とその運用　ヤスコ・ナガノ・マドセン／杉藤 美代子
富山県における指定辞デャ・ダ・ジャ・ヤの分布と変遷　小西 いずみ
外来語アクセントにおける原語の発音の関与について―４モーラ以下の語を中心に―　田野村 忠温
高知県方言の副助詞「バー」の意味機能　上野 智子
国語辞典編集のための用例データベース　木村 睦子／加藤 安彦／田中 牧郎
談話研究のツールとしての転記エディターと談話データベース　亀山 真一
世界の言語研究所（５）語言文字応用研究所（中国）　胡 士雲／古川 裕
国立国語研究所創立50周年記念事業　見聞録　片桐 恭弘／近藤 泰弘
第７回国立国語研究所国際シンポジウムご案内

【第６号】（1999年10月）
脳から見た言語　廣瀬 肇
サエとデサエ　菊地 康人
ダケの位置と限定のあり方―名詞句ダケ文とダケダ文―　安部 朋世
愛媛県青島方言のアクセント　清水 誠治・秋山 英治
確認要求表現としての「ダロウネ」　宮崎 和人
書評　横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング編著『新聞電子メディアの漢字―朝日新聞 CD-ROM による漢字頻度表―』　豊島 正之
世界の言語研究所（６）フランス国立科学研究センター音声言語研究所 CNRS LPL　西沼 行博
第７回国立国語研究所国際シンポジウム報告／平成11年度国立国語研究所公開研究発表会ご案内

【第７号】（2000年4月）
「新しい日本語」と日本語教育　阪田 雪子
「非限定」の連体修飾節に関する一考察―「眼前描写」の連体修飾節について―　ソムキャット チャウェンギッジワニッシュ
動詞慣用句に対する統語的操作の階層関係　石田 プリシラ
共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の関連について　ポリー・ザトラウスキー
ニ格名詞句の意味解釈を支える構造的原理　和氣 愛仁
言語行動分析の観点 ―「行動の仕方」を形づくる諸要素について―　熊谷 智子
Japanese loanwords in Pohnpeian : adaptation and attrition　MIYAGI Kimi
可能構文における格交替現象について　中村 裕昭
災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論　松田 陽子・前田 理佳子・佐藤 和之
世界の言語研究所（７）トルコ言語協会　ＴＤＫ　林 徹
平成11年度国立国語研究所公開研究発表会報告
第７回国立国語研究所国際シンポジウム報告―その２―
第４専門部会／第５専門部会／第６専門部会

『日本語科学』投稿規定・執筆要領

（２０００年４月現在）

１．目的

本誌は，国立国語研究所における研究，ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて，広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

２．発行の時期

本誌は年２回（４月，10月）発行する。(投稿の受付は随時)

３．投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば，投稿資格は問わない。

４．原稿の内容と種類，分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。投稿原稿の種類と分量（タイトル，氏名，キーワード，要旨，概要を含む）は以下のとおり。

研 究 論 文：オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調 査 報 告：調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート：問題提起，事例報告，中間報告などの小論文。(10ページ程度)

各投稿原稿は，CD-ROM の形でデータやプログラム等を添付することができる。

この他，所内外の研究者に**展望論文**（研究動向，現時点での課題，将来の展望などについて論じた論文，20ページ程度），**書評論文**（20ページ程度）の執筆を依頼することがある。

５．原稿の書式

１）原稿は日本語または英語で執筆する。ただし，例文等において中国漢字（簡体字・繁体字），ハングル，キリル文字，ギリシャ文字を用いることは可（それ以外の文字はローマ字化）。

２）原稿は**Ａ４判横書き，43字×36行**で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。Ａ４判縦書き，30字×21行×２段。）英文の場合はマージン上下 2.5cm，左右２cm（フォント12ポイント，1.5スペース）を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。

３）研究論文及び調査報告には，**キーワード**（５つ以内），**要旨**（問題と結論の要約，10行程度），**概要**（議論全体の概要，英文は250語以内，和文は20行以内）をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合，要旨・キーワードは日本語，概要は英語を用いる（概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合，要旨・キーワードは英語，概要は日本語を用いる（概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。

４）注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。

著者名（発表年)「論文タイトル」『書名／雑誌名』巻号（雑誌の場合）ページ 発行所

例：井上 優・生越 直樹（1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因―日本語と朝鮮語の場合―」『日本語科学』１，37-52，国書刊行会

宮島 達夫（1972)『国立国語研究所報告43　動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions H. Hiz (ed) Questions. 87-105. Dordrecht:D. Reidel Publishing Company.
Hudson, Richard (1975) The meaning of qustions. Language51. 1-31.

5）付属 CD-ROM にデータ等を添付する場合は，容量やデータの形式等について，あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

6．査読

研究論文，調査報告，研究ノートは，編集委員会が依頼した２名の査読者が査読要領にもとづき審査する。編集委員会は，査読結果にもとづいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず，査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示，著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7．投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては，「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文，調査報告，研究ノートの別）」を明記の上，原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

8．採録決定後の修正

採録決定後，体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き，採録決定後の改稿や修正は認めない。

9．著作権

1）図版の転載など著作権にかかわることがらは，投稿の際に編集委員会まで知らせること。
2）掲載された論文等の著作権（著作権法第27条，28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

投稿原稿は，下記編集委員会まで郵送のこと。
〒115-8620　東京都北区西が丘3-9-14　国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

問い合わせ先，文書・FAX または電子メールで編集委員会まで。
〒115-8620　東京都北区西が丘3-9-14　国立国語研究所『日本語科学』編集委員会
FAX　03-3906-3530　（共用につき『日本語科学』編集委員会宛明記のこと）
E-mail　kagaku@kokken. go. jp
URL　http://www. kokken. go. jp/public/kagaku. html

編集委員会からのおわびとお知らせ

前号でお知らせしました「特集：言葉に関する定点観測調査」は，予定した形にまとまりませんので，勝手ながら，次号以降に繰り延べることとしました。おわびを申し上げるとともに，改めて原稿を募集いたします。ここでいう「定点観測調査」とは，一定の地域（広さは問わない）において，一定の方法に基づき，時期を隔てた２回以上にわたって行なう調査研究を意味しています。日本語学はもちろんのこと，社会学や教育心理学やマーケッティングの分野などで，言葉の動向を分析されている方々からの投稿を期待しています。

前号予告を実現できなかったことが，もう１点あります。CD－ROMの添付の件です。これは，大量のデータあるいは音声や画像・映像など活字化しにくいデータ，さらにはプログラムなどを掲載する，つまり電子メディアの特性を活かした論文等の掲載に途を開こうとするものです。この趣旨に沿う論文等の投稿がありましたが，審査中のものもあり，また掲載が決まったものの著作権処理が難渋しているものもあって，本号でのCD－ROM添付は見送らざるをえないこととなってしまいました。なお，本号掲載の笹原・横山両氏の調査報告の原データ部分は，容量の関係で次号に添付予定のCD－ROMに入れることにしました。読者の皆様にはご不自由をおかけすることになりますが，ご寛恕いただきたく存じます。

査読者一覧（第５号～第８号）

（五十音順，敬称略）

相澤 正夫，安達 太郎，天野 みどり，鮎沢 孝子，荒川 清秀，李 漢燮，石井 恵理子，石井 久雄，石井 正彦，井島 正博，井上 優，宇佐美 洋，内田 賢徳，上野 善道，江川 清，大島 資生，大西 拓一郎，荻野 紫穂，荻野 綱男，生越 まり子，尾崎 喜光，川﨑 晶子，菅野 謙，熊谷 智子，熊谷 康雄，郡司 隆男，小林 隆，近藤 泰弘，定延 利之，下野 雅昭，シュテファン・カイザー，杉戸 清樹，杉本 武，高橋 太郎，高橋 弥守彦，田中 章夫，田中 牧郎，ダニエル・ロング，田野村 忠温，田村 紀雄，土屋 信一，土屋 礼子，靏岡 昭夫，當眞 千賀子，外池 滋生，中野 洋，沼田 善子，野田 尚史，野村 雅昭，橋本 修，服部 匡，半澤 幹一，彦坂 佳宣，藤井 聖子，細川 英雄，前川 喜久雄，前田 直子，益岡 隆志，松本 曜，三原 健一，三宅 和子，三宅 知宏，宮島 達夫，村木 新次郎，森山 卓郎，茂呂 雄二，矢田部 修一，山崎 誠，山田 貞雄，横山 詔一

編集後記

◆本誌は，1997年の創刊以来，順調に育ってきている。ひとえに読者，投稿者，査読者など多くの方々の暖かいご支援の賜物と感謝している。本編集委員会は，投稿論文に対して最適な評価・助言ができる方々に査読依頼をしている。このため，全く面識のない方々にも査読をお願いすることが少なくないが，ほとんどの方々から快諾していただき，編集委員会宛てに建設的なコメントも多数いただいている。第５号から８号の間に査読をお願いした方々のお名前を，別項「査読者一覧」として掲載し，改めて謝意を表したい。

◆前号で予告した，２つの新企画「特集」と「CD-ROM 活用」は，編集委員会の詰めの甘さと著作権処理上の問題から，ともに次号回しになってしまった。関係者各位に非常に申し訳なく思っている。かような問題を残したまま，現編集委員は，本号をもって交代する。新委員会のもと，本誌は，新しい層への浸透など，より充実したものとなることを期待している。今後とも皆様からのより一層のご支援をお願いする次第である。

本号の英文校訂は国立国語研究所招聘研究員のポリー・ザトラウスキー氏にお願いした。

編集委員
江川　清　　（委員長，国立国語研究所）
井上　優　　（国立国語研究所）
大島　資生　（東京大学留学生センター）
熊谷　智子　（国立国語研究所）
鈴木　美都代（国立国語研究所）
田中　牧郎　（国立国語研究所）
塚田　実知代（国立国語研究所）
藤井　聖子　（東京大学大学院総合文化研究科）
横山　詔一　（国立国語研究所）

『日本語科学』８

2000年10月

国立国語研究所
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL.03-3900-3111（代表）

［本書の市販品発行所］
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421

（平12－8）